

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日 2 0 0 2 年 1 2 月 2 0 日
Date of Application:

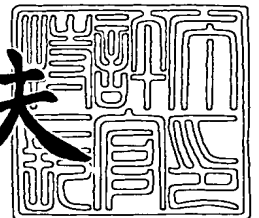
出 願 番 号 特 願 2 0 0 2 - 3 6 9 8 6 8
Application Number:
[ST. 10/C]: [J P 2 0 0 2 - 3 6 9 8 6 8]

出 願 人 株式会社村上開明堂
Applicant(s):

2 0 0 3 年 1 0 月 7 日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

今 井 康 夫



出証番号 出証特 2 0 0 3 - 3 0 8 2 6 8 7

【書類名】 特許願

【整理番号】 02042JP

【提出日】 平成14年12月20日

【あて先】 特許庁長官 殿

【国際特許分類】 B60R 1/06

【発明者】

【住所又は居所】 静岡県藤枝市兵太夫 7 4 8 番地
株式会社村上開明堂藤枝事業所内

【氏名】 深井 晃

【発明者】

【住所又は居所】 静岡県藤枝市兵太夫 7 4 8 番地
株式会社村上開明堂藤枝事業所内

【氏名】 松浦 正明

【特許出願人】

【識別番号】 000148689

【氏名又は名称】 株式会社村上開明堂

【代理人】

【識別番号】 100113125

【弁理士】

【氏名又は名称】 須崎 正士

【電話番号】 03-5211-2488

【代理人】

【識別番号】 100064414

【弁理士】

【氏名又は名称】 磯野 道造

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 015392

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 0208637

【包括委任状番号】 0106143

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 アウターミラー

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 自動車の車体の側面からその側方に向かって張り出すミラーベースと、当該ミラーベースに吊設されるミラーハウジングとを備えて構成されるアウターミラーであって、

前記ミラーベースに一つ又は複数の補助ミラーが設けられていることを特徴とするアウターミラー。

【請求項 2】 前記補助ミラーは、その角度が調整可能に構成されていることを特徴とする請求項 1 に記載のアウターミラー。

【請求項 3】 自動車の車体の側面からその側方に向かって張り出すミラーベースと、当該ミラーベースに吊設されるミラーハウジングとを備えて構成されるアウターミラーであって、

前記ミラーベースにはアタッチメント着脱部が設けられており、一つ又は複数の補助ミラーを備えた補助ミラーアタッチメントが、前記アタッチメント着脱部に対して着脱自在に構成されていることを特徴とするアウターミラー。

【請求項 4】 前記アタッチメント着脱部から前記補助ミラーアタッチメントを取り外した際は、前記アタッチメント着脱部には該アタッチメント着脱部を覆うカバーを取り付けるように構成されていることを特徴とする請求項 3 に記載のアウターミラー。

【請求項 5】 前記補助ミラーは、その角度が調整可能に構成されていることを特徴とする請求項 3 に記載のアウターミラー。

【発明の詳細な説明】

【0 0 0 1】

【発明の属する技術分野】

本発明は、自動車のサイドドア付近に付設されるアウターミラーに関し、詳しくは補助ミラーを備えたアウターミラーに関するものである。

【0 0 0 2】

【従来の技術】

従来、ミラーハウジングに補助ミラーが取り付けられたアウターミラーが提案されている（例えば、特許文献1参照）。特許文献1に開示されている「補助ミラー付きドアミラー」は、駐車時における白線や車止めの位置や、駐車時又は運転時における後輪の位置などの視認を容易にすることを目的としており、車の後輪の接地点を映し出せる角度に設定できる補助ミラーを内部に設けた補助ケースを、ドアミラー本体ケース（ミラーハウジング）の下面の外部側に脱着可能に取り付けた構造となっている。

【0003】

【特許文献1】

登録実用新案第3074031号公報（第5頁，図1）

【0004】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、特許文献1に開示されているような「補助ミラー付きドアミラー」では、補助ミラーはミラーハウジングの下側に取り付けられるため、運転手からは補助ミラーが見えづらいという問題があった。また、助手席からは運転席側の補助ミラーを見ることができなかった。

【0005】

また、従来のドアミラーでは、補助ミラーはミラーハウジングに取り付けられているが、ミラーハウジングはミラーベースに固定されたシャフトに回転可能に取り付けられているので、ミラーハウジングとシャフトの強度はそれほど強いものではなく、ミラーハウジングには重くてかさ張るタイプの補助ミラーを取り付けるとびびり振動が発生し、車両走行時にミラーの視界を妨げたり、異音が発生して快適性を損ねる恐れがある。要するに、従来のドアミラーでは、重くてかさ張るタイプの補助ミラーを取り付けることができないという問題があった。

【0006】

そこで、本発明の課題は、補助ミラーをミラーハウジングの上側に取り付けることができ、かつ、重くてかさ張るタイプの補助ミラーを取り付けることができるアウターミラーを提供することにある。

【0007】

【課題を解決するための手段】

前記課題を解決するため、請求項 1 に係るアウターミラーは、自動車の車体の側面からその側方に向かって張り出すミラーベースと、当該ミラーベースに吊設されるミラーハウジングとを備えて構成されるアウターミラーであって、前記ミラーベースに一つ又は複数の補助ミラーが設けられていることを特徴とする。

【0008】

このように構成されたアウターミラーによれば、ミラーハウジングをミラーベースの下側に吊設しているので、ミラーベースの上側に補助ミラーを取り付けることができる。したがって、補助ミラーを、ミラーハウジングに取り付けられている正規のミラーよりも上側に設置することができるので、運転手にとって補助ミラーが見えやすくなる。

【0009】

また、補助ミラーがミラーベースに設けられることにより、助手席に乗った人（助手）からでも運転席側の補助ミラーを見ることができるので、助手が運転席側の補助ミラーを使用することが可能になる。同様に、運転手からでも助手席側の補助ミラーを見ることができるので、運転手が助手席側の補助ミラーを使用することが可能になる。

【0010】

また、補助ミラーをミラーベースに取り付ける構造とすることにより、前記したミラーハウジングとシャフトの強度を考慮する必要がなくなるので、従来のミラーハウジングに補助ミラーを取り付けた場合よりも重くてかさ張るタイプの補助ミラーを取り付けることが可能になる。また、びびり振動が発生し、車両走行時にミラーの視界を妨げたり、異音が発生して快適性を損ねる恐れがなくなる。

【0011】

さらに、補助ミラーをミラーベースに取り付ける構造とすることにより、ミラーハウジングを回動させて格納した際にも、従来のミラーハウジングに補助ミラーを取り付けた場合のように、補助ミラーがミラーハウジングと共に回動して格納されることはないので、ミラーハウジングの格納時にも補助ミラーを使用することができる。

【 0 0 1 2 】

また、アウターミラーに設けられる補助ミラーの数は一つに限らず、必要に応じて複数設置すればよい。このことにより、例えば2つの補助ミラーを並列又は縦列に並べて配置した場合は、一方の補助ミラーを運転手用の補助ミラーとして使用し、他方の補助ミラーを助手用の補助ミラーとして使用することにより、運転手と助手の両者から、車両の同じ側の補助ミラーを使用することが可能になる。また、両方の補助ミラーを運転手用又は助手用として使用することも可能である。

【 0 0 1 3 】

また、補助ミラーを、その角度が調整可能に構成すると、使用目的に応じて補助ミラーの角度を適宜設定することができるので便利である。例えば、補助ミラーの角度を、運転手から車両の後輪の接地点とその周辺部を広範囲に見ることができるような角度に設定すると、運転手は駐車時又は運転時における後輪の位置や、駐車時における白線や車止めの位置などを容易に視認することができる。また、例えば、補助ミラーの角度を、助手席に乗った人（助手）から車両の後方を見ることができるような角度に設定すると、助手が補助ミラーを使用することが可能になる（請求項2）。

【 0 0 1 4 】

また、請求項3に係るアウターミラーは、自動車の車体の側面からその側方に向かって張り出すミラーベースと、当該ミラーベースに吊設されるミラーハウジングとを備えて構成されるアウターミラーであって、前記ミラーベースにはアタッチメント着脱部が設けられており、一つ又は複数の補助ミラーを備えた補助ミラーアタッチメントが、前記アタッチメント着脱部に対して着脱自在に構成されていることを特徴とする。

【 0 0 1 5 】

このように構成されたアウターミラーによれば、一つ又は複数の補助ミラーを備えた補助ミラーアタッチメントを必要に応じて着脱することが可能になる。つまり、補助ミラーを使用しないときはミラーベースから補助ミラーを取り外し、補助ミラーを使用するときだけミラーベースに補助ミラーを取り付けることが可

能になる。さらに、補助ミラーの数やデザインなどが異なる複数の種類の補助ミラーアタッチメントを、必要に応じて使い分けることもできる。

【0016】

また、補助ミラーを使用しないときは、ミラーベースのアタッチメント着脱部から補助ミラーアタッチメントを取り外し、アタッチメント着脱部にアタッチメント着脱部を覆うカバーを取り付けるように構成すると、補助ミラーアタッチメントが取り外されたアタッチメント着脱部が露出するのを防ぐことができる。したがって、アタッチメント着脱部から補助ミラーアタッチメントを取り外した場合でも、アウターミラー全体のデザインが損なわれることがない（請求項4）。

【0017】

また、補助ミラーを、その角度が調整可能に構成すると、使用目的に応じて補助ミラーの角度を適宜設定することができるので便利である。例えば、補助ミラーの角度を、運転手から車両の後輪の接地点とその周辺部を広範囲に見ることができるような角度に設定すると、運転手は駐車時又は運転時における後輪の位置や、駐車時における白線や車止めの位置などを容易に視認することができる。また、例えば、補助ミラーの角度を、助手席に乗った人（助手）から車両の後方を見ることができるような角度に設定すると、助手が補助ミラーを使用することが可能になる（請求項5）。

【0018】

【発明の実施の形態】

以下、本発明に係るアウターミラーの実施の形態について、適宜図面を参照して詳細に説明する。なお、本発明に係るアウターミラーは、電動格納式のドアミラーである。また、以下の説明における「前後」、「左右」、「上下」は、本発明に係るアウターミラーが取り付けられる車両における「前後」、「左右」、「上下」である。

【0019】

（第1の実施の形態）

まず、本発明に係るアウターミラーの第1の実施の形態について、図1～図4を参照して説明する。

【0020】

本実施の形態に係るアウターミラー１はいわゆるドアミラーであり、車両１０のサイドドア１１０に設けられた取付座１１１に取り付けられている（図１参照）。このアウターミラー１は、図１に示すように、サイドドア１１０の側面からその側方に向かって張り出すミラーベース１０と、ミラーベース１０の下側に吊設されるミラーハウジング２０とを備えて構成されており、ミラーベース１０には補助ミラー３０が設けられている。以下、アウターミラー１の各部の詳細について、図２及び図３を参照して説明する。

【0021】

ミラーベース１０は、図２に示すように、サイドドア１１０の前端部に形成された取付座１１１（図１参照）に固定される取付板１１と、この取付板１１からサイドドア１１０の側方に向かって張り出すベース本体１２とから構成されている。なお、取付板１１とベース本体１２は、例えば剛性の高い合成樹脂材から一体に成形されている。

【0022】

取付板１１は、サイドドア１１０の取付座１１１と略同形に形成されており、その取付座１１１側の面には、複数のボス孔１１ａが形成されている。これらのボス孔１１ａに車両１００の内部から図示しないビスを螺入することにより、取付板１１は取付座１１１に取り付けられる。また、取付板１１には、ベース本体１２からワイヤーハーネス２８を導出させるための導出孔１１ｂが形成されている。導出孔１１ｂから導出されたワイヤーハーネス２８は、取付座１１１に形成された導出孔１１１ａを通して車両１００の内部に導出される。

【0023】

ミラーハウジング２０は、図２に示すように、シャフト２１を介してミラーベース１０のベース本体１２の下側に吊設されている。なお、シャフト２１の上部は、図示しないネジによってベース本体１２の下面に固定される。このミラーハウジング２０は、シャフト２１に取り付けられるサブアッセンブリ２０Ａと、サブアッセンブリ２０Ａに下方向から被せられる下ハウジング２０Ｂとから構成されている。なお、下ハウジング２０Ｂは、例えば剛性の高い合成樹脂材から成形

されている。このミラーハウジング 20 は、ミラーベース 10 に対して回転し、サイドドア 110 に沿った格納位置に格納する又は前記格納位置から使用位置に復帰させることができるように構成されている。

【0024】

サブアッセンブリ 20A は、シャフト 21 に取り付けられるフレーム 22 を備えており、フレーム 22 には、駆動ユニット 23、ミラーアッセンブリ 24 及び上ハウジング 25 が組み付けられている。

【0025】

駆動ユニット 23 は、ミラーハウジング 20 を、シャフト 21 を中心として回転させて格納位置に格納する又は格納位置から使用位置に復帰させるための装置である。この駆動ユニット 23 は、図示は省略するが、駆動力を発生させるモータと、シャフト 21 に装着される減速機とを備えており、前記モータの駆動力は前記減速機を介してシャフト 21 に伝達されるように構成されている。したがって、前記モータを駆動させることにより、シャフト 21 を中心として、ミラーハウジング 20 を回転させることができる。なお、ミラーハウジング 20 の回転方向は、前記モータの回転方向を適宜制御することにより選択される。

【0026】

ミラーアッセンブリ 24 は、後方視認用のミラー 26 と、ミラー 26 の鏡面の向きを調節するアクチュエータ 27 とから構成されている。アクチュエータ 27 は、図示は省略するが、ミラー 26 の上下方向の向きを調節するモータと、左右方向の向きを調節するモータとを備えており、前記各モータの回転方向を適宜制御することによりミラー 26 の鏡面の向きを調節することができる。

【0027】

上ハウジング 25 は、下ハウジング 20B の上部を覆う部材であり、その上面には、ミラーハウジング 20 の回転軸となるシャフト 21 が臨む開口部 25a が形成されている。なお、上ハウジング 25 は、例えば剛性の高い合成樹脂材から成形されている。

【0028】

下ハウジング 20B は、その上部が開口形成されており、サブアッセンブリ 2

0 Aに下側から被せられた後、ネジによって上ハウジング25に固定される。また、下ハウジング20Bの後部、すなわちサブアッセンブリ20Aのミラーアッセンブリ24に設けられたミラー26と対向する部分には、ミラー26の鏡面が傾動可能に臨む開口部が形成されている。

【0029】

駆動ユニット23とミラーアッセンブリ24のアクチュエータ27へ電力を供給するためのワイヤーハーネス28は、シャフト21の内部を利用して配索されている。具体的には、ワイヤーハーネス28は、シャフト21の内部を通してミラーベース10のベース本体12の内部に導出された後、ミラーベース10の取付部11の導出孔11bと取付座111の導出孔111aとを通して車両100の内部に導出されて、車両100の図示しないコントロールユニットなどに接続される。

【0030】

補助ミラー30は、図1に示すように、ミラーベース10のベース本体12の後部に設けられている。なお、補助ミラー30の大きさや、補助ミラー30が設けられる位置は適宜変更することができる。

【0031】

このように、補助ミラー30をミラーベース10のベース本体12に取り付ける構造とすることにより、ミラーハウジング20とシャフト21の強度を考慮する必要がなくなるので、従来のミラーハウジングに補助ミラーを取り付けた場合よりも重くてかさ張るタイプの補助ミラーを取り付けることが可能になる。また、びびり振動が発生し、車両走行時にミラーの視界を妨げたり、異音が発生して快適性を損ねる恐れがなくなる。

【0032】

また、補助ミラー30をミラーベース10に取り付ける構造とすることにより、ミラーハウジング20を回動させて格納した際にも、従来のミラーハウジングに補助ミラーを取り付けた場合のように、補助ミラー30がミラーハウジング20と共に回動して格納されることがないので、ミラーハウジング20の格納時にも補助ミラー30を使用することができる。

【0033】

そして、ミラーハウジング20はミラーベース10の下側に吊設されているので、補助ミラー30はミラーハウジング20のミラーアッセンブリ24（図2参照）に設けられたミラー26の上側に位置する。このように、補助ミラー30の位置がミラーハウジング20に設けられたミラー26の上側となることにより、運転手にとって補助ミラー30が見えやすくなる。

【0034】

また、補助ミラー30がミラーベース10のベース本体12に設けられることにより、助手からでも運転席側の補助ミラー30Aを見ることができるので、助手が運転席側の補助ミラー30Aを使用することが可能になる（図3参照）。同様に、運転手からでも助手席側の補助ミラー30Bを見ることができるので、運転手が助手席側の補助ミラー30Bを使用することが可能になる（図3参照）。

【0035】

また、補助ミラー30は、ミラーベース10のベース本体12内に設けられたピボット機構によって、その角度を自在に調整することができるよう構成されている。本実施の形態では、補助ミラー30の角度は、運転手から車両100の後輪の接地点とその周辺部を広範囲に見ることができるような角度に設定されている（図4参照）。補助ミラー30の角度をこのような角度に設定すると、運転手は駐車時又は運転時における後輪の位置や、駐車時における白線や車止めの位置などを容易に視認することができる。

【0036】

なお、図4の例では、補助ミラー30の角度は、運転手から車両100の後輪の接地点とその周辺部を広範囲に見ることができるような角度に設定されているが、補助ミラー30の角度は、その使用目的に応じて適宜設定すればよい。例えば、補助ミラー30の角度を、助手席に乗った人（以降、「助手」という）から車両100の後方を見ることができるような角度に設定すれば、助手が補助ミラー30を使用することが可能になる。

【0037】

このように、補助ミラー30を、その角度が調整可能に構成すると、使用目的

に応じて補助ミラー 30 の角度を適宜設定することができるので便利である。なお、本実施の形態では、補助ミラー 30 の角度を手動により調整するように構成したが、補助ミラー 30 の角度を電動により調整するように構成することもできる。また、その場合は、車両のギアをバックに入れた際に、補助ミラー 30 の角度があらかじめ設定された角度に調整されるように構成すると、運転手は車両の後退時に補助ミラー 30 の角度を一々調整する必要がないので便利である。

【0038】

また、補助ミラー 30 の角度を電動により調整するように構成する場合は、補助ミラー 30 の角度を調整するためのモータは、ミラーベース 10 のベース本体 12 の内部に収納されることとなるが、その場合は、前記モータへ電力を供給するためのワイヤーハーネスは、ミラーベース 10 の取付板 11 に設けた導出孔 11b (図 2 参照) から車両 100 の内部に導出させることができる。したがって、従来のミラーハウジングに補助ミラーを取り付けた場合のように、前記ワイヤーハーネスをシャフトの内部を利用して配索する必要がないので、前記した従来の場合と比べて、補助ミラー 30 の角度を電動により調整するように構成することは容易になる。

【0039】

(第 2 の実施の形態)

次に、本発明に係るアウターミラーの第 2 の実施の形態について、図 5 及び図 6 を参照して説明する。なお、以下の説明において、前記した第 1 の実施の形態と同一の部分については、同じ符号を付して詳細な説明は省略する。

【0040】

図 5 及び図 6 に示すように、ミラーベース 10 のベース本体 12 には、複数の補助ミラー 40 (50) を設けることもできる。図 5 では、2 つの補助ミラー 40A, 40B を並列に配置しており、図 6 では、2 つの補助ミラー 50A, 50B を縦列に配置している。図 5 では、車両 100 のサイドドア 110 側に位置する補助ミラー 40A を運転手用の補助ミラーとして使用し、他方の補助ミラー 40B を助手用の補助ミラーとして使用している。また、図 6 では、上側の補助ミラー 50A を運転手用の補助ミラーとして使用し、下側の補助ミラー 50B を助

手用の補助ミラーとして使用している。

【0 0 4 1】

このように、ミラーベース 1 0 のベース本体 1 2 に 2 つの補助ミラー 4 0 A, 4 0 B (5 0 A, 5 0 B) を設け、一方の補助ミラーを運転手用の補助ミラーとして使用し、他方の補助ミラーを助手用の補助ミラーとして使用することにより、運転手と助手の両者から、車両 1 0 0 の同じ側の補助ミラーを使用することが可能になる。

【0 0 4 2】

なお、本実施の形態では、2 つの補助ミラー 4 0 A, 4 0 B (5 0 A, 5 0 B) の一方の補助ミラーを運転手用として使用し、他方の補助ミラーを助手用の補助ミラーとして使用する場合について説明したが、両方の補助ミラーを運転手用又は助手用として使用することも可能である。

【0 0 4 3】

また、本実施の形態では、ミラーベース 1 0 のベース本体 1 2 に 2 つの補助ミラー 4 0 A, 4 0 B (5 0 A, 5 0 B) を設けた場合について説明したが、使用目的に応じてベース本体 1 2 に 3 つ又はそれ以上の数の補助ミラーを設けることができる。

【0 0 4 4】

(第 3 の実施の形態)

次に、本発明に係るアウターミラーの第 3 の実施の形態について、図 7 ～図 1 2 を参照して説明する。なお、以下の説明において、前記した第 1 の実施の形態と同一の部分については、同じ符号を付して詳細な説明は省略する。

【0 0 4 5】

図 7 (a) , (b) に示すように、ミラーベース 1 0 のベース本体 1 2 にアタッチメント着脱部 1 3 を設け、補助ミラー 6 1 を備えた補助ミラーアタッチメント 6 0 をアタッチメント着脱部 1 3 に対して着脱自在に構成することもできる。なお、補助ミラーアタッチメント 6 0 に設けられる補助ミラーの数は一つに限らず、必要に応じて複数設置することができる。また、補助ミラー 6 1 は、その角度が調整可能に構成されており、補助ミラー 6 1 の角度は使用目的に応じて適宜

設定される。

【0 0 4 6】

このように構成すると、補助ミラーを使用しないときは、ミラーベースから補助ミラーを取り外し、補助ミラーを使用するときだけミラーベース 1 0 に補助ミラーを取り付けることが可能になる。さらに、補助ミラーの数やデザインなどが異なる複数の種類の補助ミラーアタッチメントを、必要に応じて使い分けることもできる。以下、補助ミラーアタッチメント 6 0 をアタッチメント着脱部 1 3 に取り付ける方法（第 1 の取付方法、第 2 の取付方法、第 3 の取付方法）を、図 8、図 9 及び図 1 0 を参照して説明する。

【0 0 4 7】

（第 1 の取付方法）

図 8（a），（b）に示すように、補助ミラーアタッチメント 6 0 の下部周縁に形成された 4 つの爪 6 2 を、アタッチメント着脱部 1 3 の側壁に凹状に形成された係止部 1 3 a にそれぞれ係止させることにより、補助ミラーアタッチメント 6 0 をアタッチメント着脱部 1 3 に取り付ける。

【0 0 4 8】

補助ミラーアタッチメント 6 0 とアタッチメント着脱部 1 3 をこのように構成すると、補助ミラーアタッチメント 6 0 をアタッチメント着脱部 1 3 に容易に取り付けることができる。

【0 0 4 9】

（第 2 の取付方法）

図 9（a），（b）に示すように、補助ミラーアタッチメント 6 0 の下部周縁における取付板 1 1 の反対側に形成された 1 つの爪 6 3 を、アタッチメント着脱部 1 3 における取付板 1 1 の反対側の側壁に凹状に形成された係止部 1 3 a に係止させた後、アタッチメント着脱部 1 3 の底面に形成された挿通孔 1 3 b を挿通させたビス 1 4 を、補助ミラーアタッチメント 6 0 の下部に穿設された穿孔 6 4 に螺入することにより、補助ミラーアタッチメント 6 0 をアタッチメント着脱部 1 3 に取り付ける。なお、挿通孔 1 3 b は、ビス 1 4 を穿孔 6 4 に螺入させやすくするために、ボスが立った形状に形成されている。

【0050】

補助ミラーアタッチメント60とアタッチメント着脱部13をこのように構成すると、前記した第1の取付方法と比べて、補助ミラーアタッチメント60とアタッチメント着脱部13の嵌合力を高めることができる。

【0051】

(第3の取付方法)

図10(a), (b)に示すように、補助ミラーアタッチメント60の下部周縁における取付板11の反対側に形成された1つの爪63を、アタッチメント着脱部13における取付板11の反対側の側壁に凹状に形成された係止部13aに係止させた後、ミラーベース10の取付板11の側壁に形成された挿通孔11cを挿通させたビス14を、車両100の内部から補助ミラーアタッチメント60の取付板11側の側部に穿設された穿孔65に螺入することにより、補助ミラーアタッチメント60をアタッチメント着脱部13に取り付ける。

【0052】

補助ミラーアタッチメント60とアタッチメント着脱部13をこのように構成すると、アタッチメント着脱部13に対する補助ミラーアタッチメント60の着脱は、アウターミラー1を車両100の取付座111から取り外さないで行うことができないので、アタッチメント着脱部13から補助ミラーアタッチメント60を容易に取り外すことができなくなる。したがって、車両100の駐車時における補助ミラーアタッチメント60の盗難を防止することができる。

【0053】

次に、補助ミラーを使用しないときに、ミラーベース10のアタッチメント着脱部13から補助ミラーアタッチメント60を取り外した場合について、図11を参照して説明する。

【0054】

図11(a), (b)に示すように、補助ミラーを使用しないときは、ミラーベース10のアタッチメント着脱部13から補助ミラーアタッチメント60を取り外し、アタッチメント着脱部13にカバー70を取り付けるように構成すると、補助ミラーアタッチメント60が取り外されたアタッチメント着脱部13が露

出するのを防ぐことができる。したがって、アタッチメント着脱部 13 から補助ミラーアタッチメント 60 を取り外した場合でも、アウターミラー 1 全体のデザインが損なわれることがない。

【0055】

以上、本発明の実施の形態について説明したが、本発明はこのような実施の形態にのみ限定されるものではなく、本発明の技術的思想に基づく限りにおいて、種々の変形が可能である。

【0056】

例えば、本実施の形態に係るアウターミラー 1 は、電動格納式であったが、これに限定されることはなく、手動格納式や固定式のものであっても構わない。また、ミラーベース 10、ミラーハウジング 20 及び補助ミラー 30 (40, 50, 61) の寸法や形状などは、デザインなどに応じて変更可能であり、図示したものに限定されることはない。

【0057】

【発明の効果】

以上説明したように、本発明によれば、補助ミラーをミラーハウジングの上側に取り付けることができ、かつ、重くてかさ張るタイプの補助ミラーを取り付けることができるアウターミラーを提供することができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

本実施の形態に係るアウターミラー 1 を車両 100 の左後側から見た斜視図である。

【図 2】

図 1 に示したアウターミラー 1 の構造を分解して示す斜視図である。

【図 3】

運転手から助手席側の補助ミラーを見た状態と、助手から運転席側の補助ミラーを見た状態を模式的に示す平面図である。

【図 4】

アウターミラー 1 を車両 100 の内部から見た斜視図である。

【図 5】

ミラーベース 10 のベース本体 12 に、2 つの補助ミラー 40 A, 40 B を並列に配置した様子を示す斜視図である。

【図 6】

ミラーベース 10 のベース本体 12 に、2 つの補助ミラー 50 A, 50 B を縦列に配置した様子を示す斜視図である。

【図 7】

アタッチメント着脱部 13 に対する補助ミラーアタッチメント 60 の取り付けを説明するための斜視図であり、(a) は取付前を示し、(b) は取付後を示す。

【図 8】

アタッチメント着脱部 13 に対する補助ミラーアタッチメント 60 の第 1 の取付方法を示す図であり、(a) は斜視図、(b) は (a) における A-A 線断面図である。

【図 9】

アタッチメント着脱部 13 に対する補助ミラーアタッチメント 60 の第 2 の取付方法を示す図であり、(a) は斜視図、(b) は (a) における B-B 線断面図である。

【図 10】

アタッチメント着脱部 13 に対する補助ミラーアタッチメント 60 の第 3 の取付方法を示す図であり、(a) は斜視図、(b) は (a) における C-C 線断面図である。

【図 11】

アタッチメント着脱部 13 に対するカバー 70 の取り付けを説明するための斜視図であり、(a) は取付前を示し、(b) は取付後を示す。

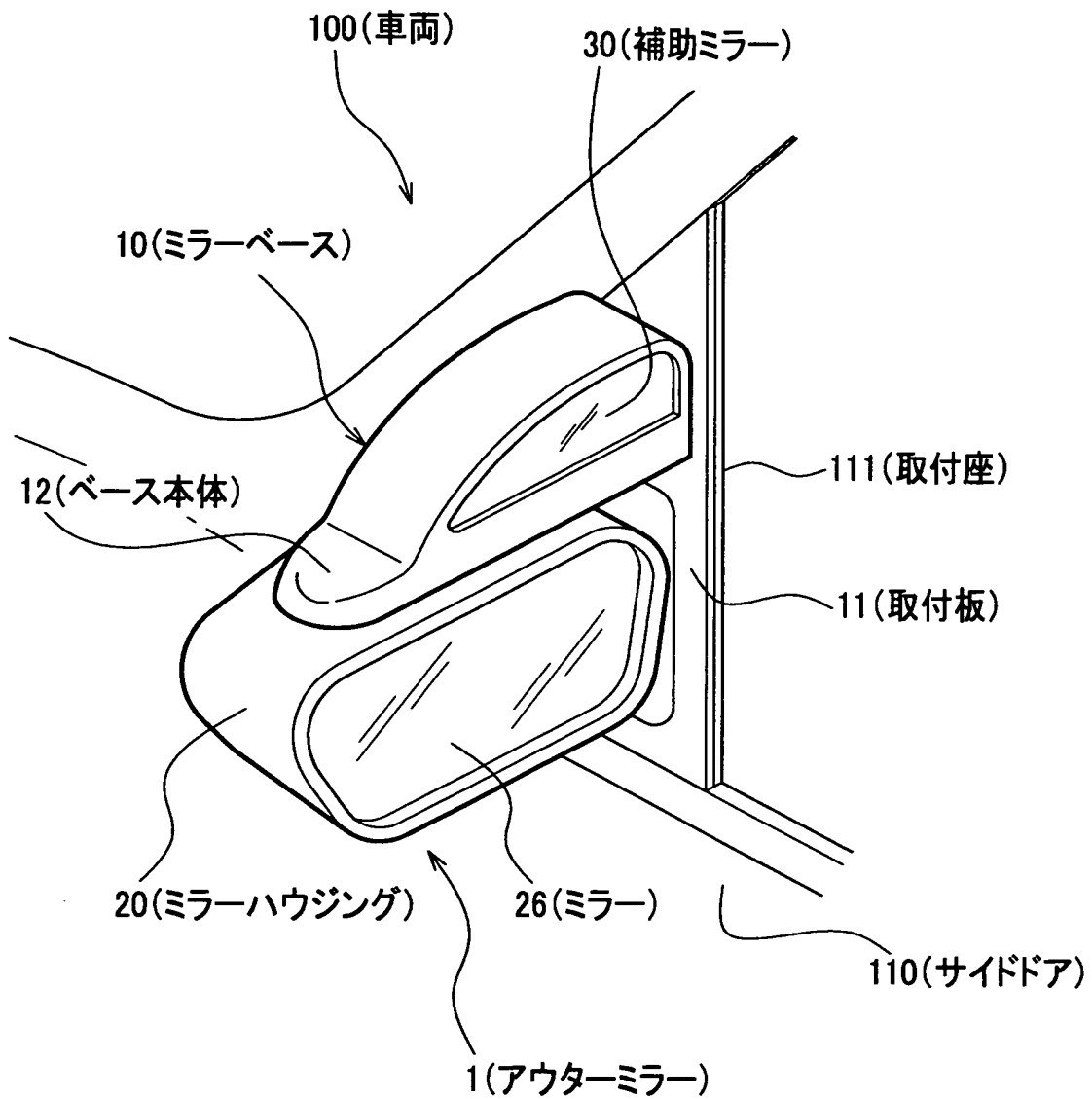
【符号の説明】

- 1 アウターミラー
- 10 ミラーベース
- 11 取付部

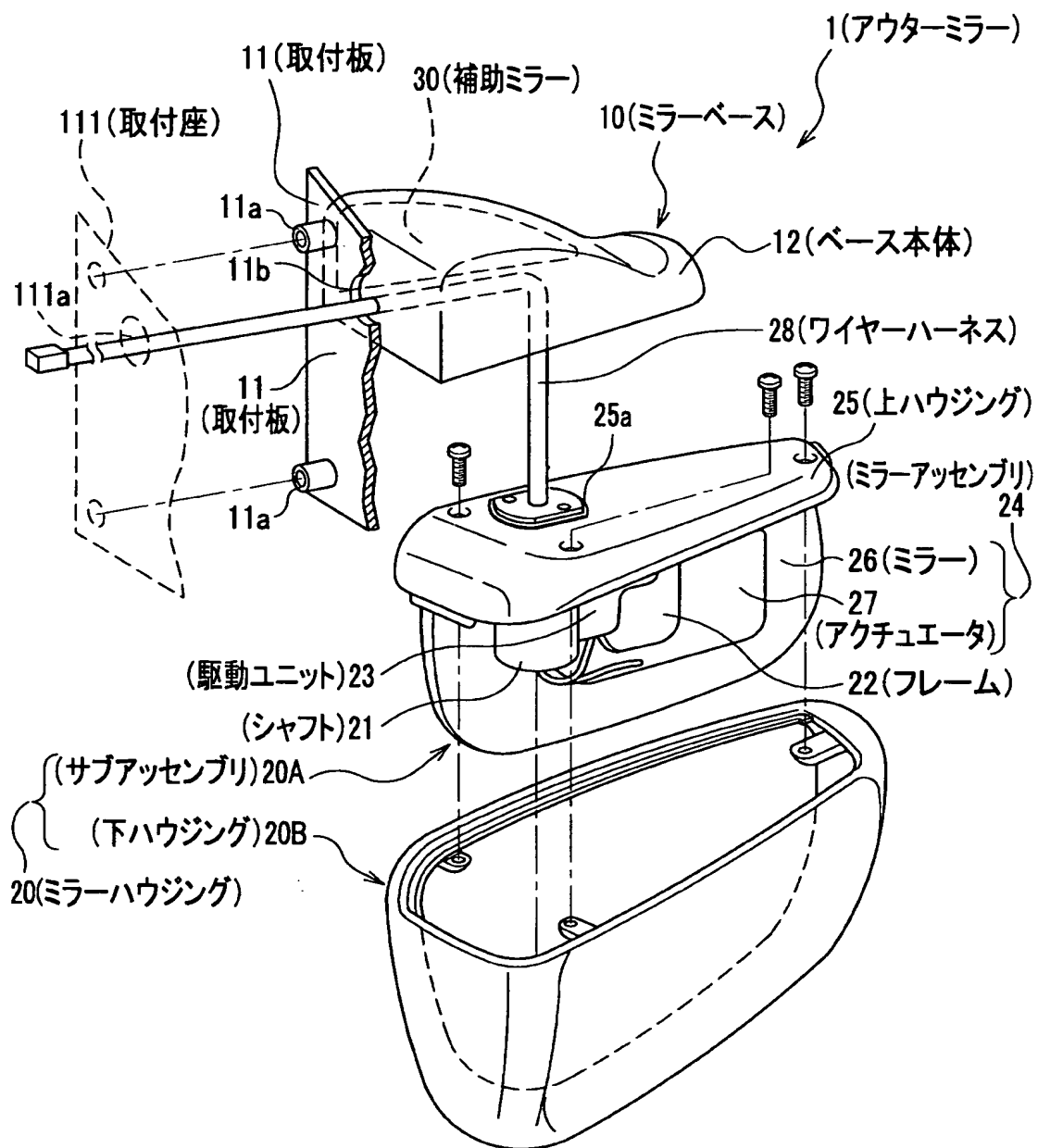
- 1 2 ベース本体
- 2 0 ミラーハウジング
- 2 6 ミラー
- 3 0 補助ミラー
- 1 0 0 車両
- 1 1 0 サイドドア
- 1 1 1 取付座

【書類名】 図面

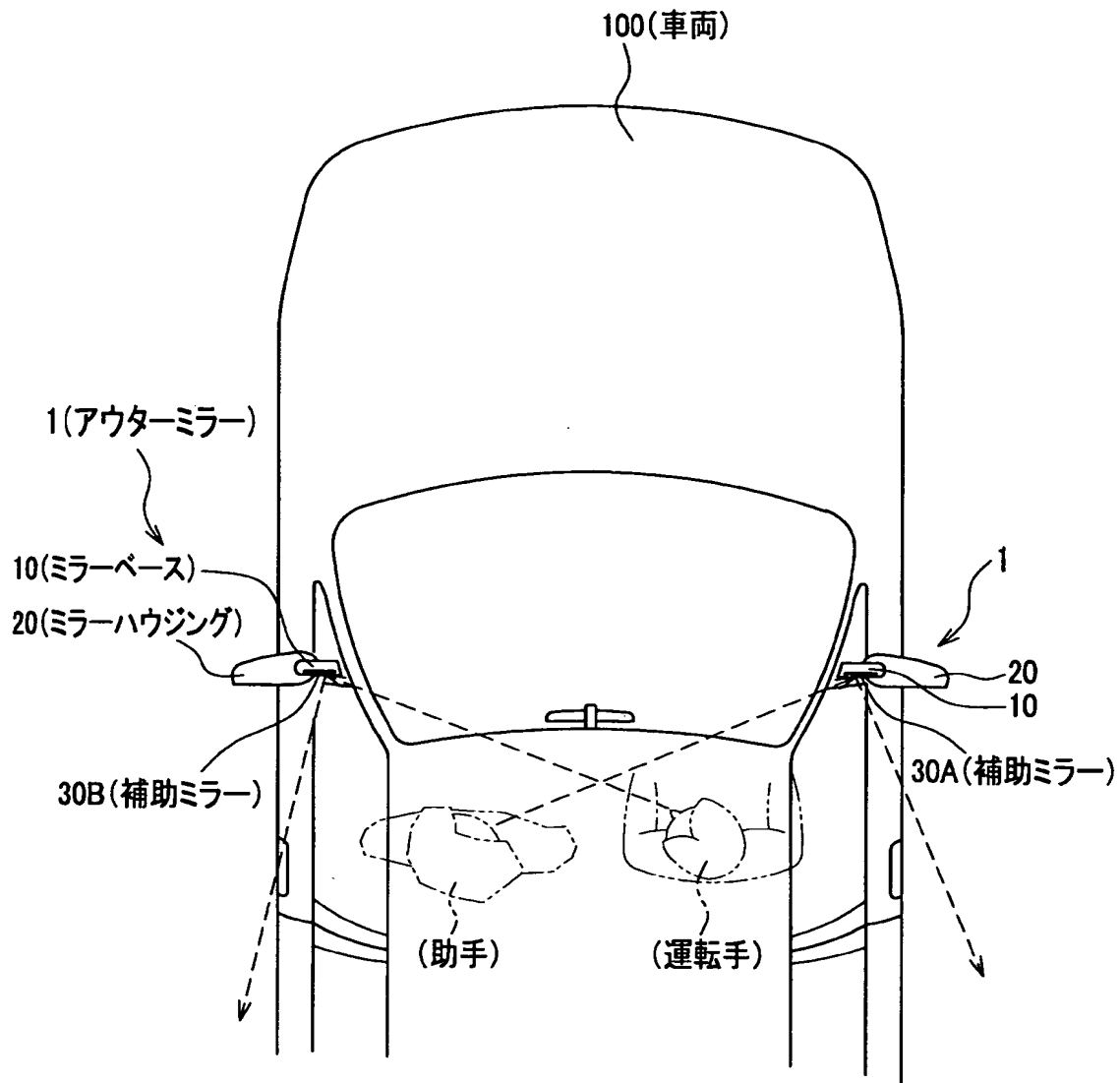
【図 1】



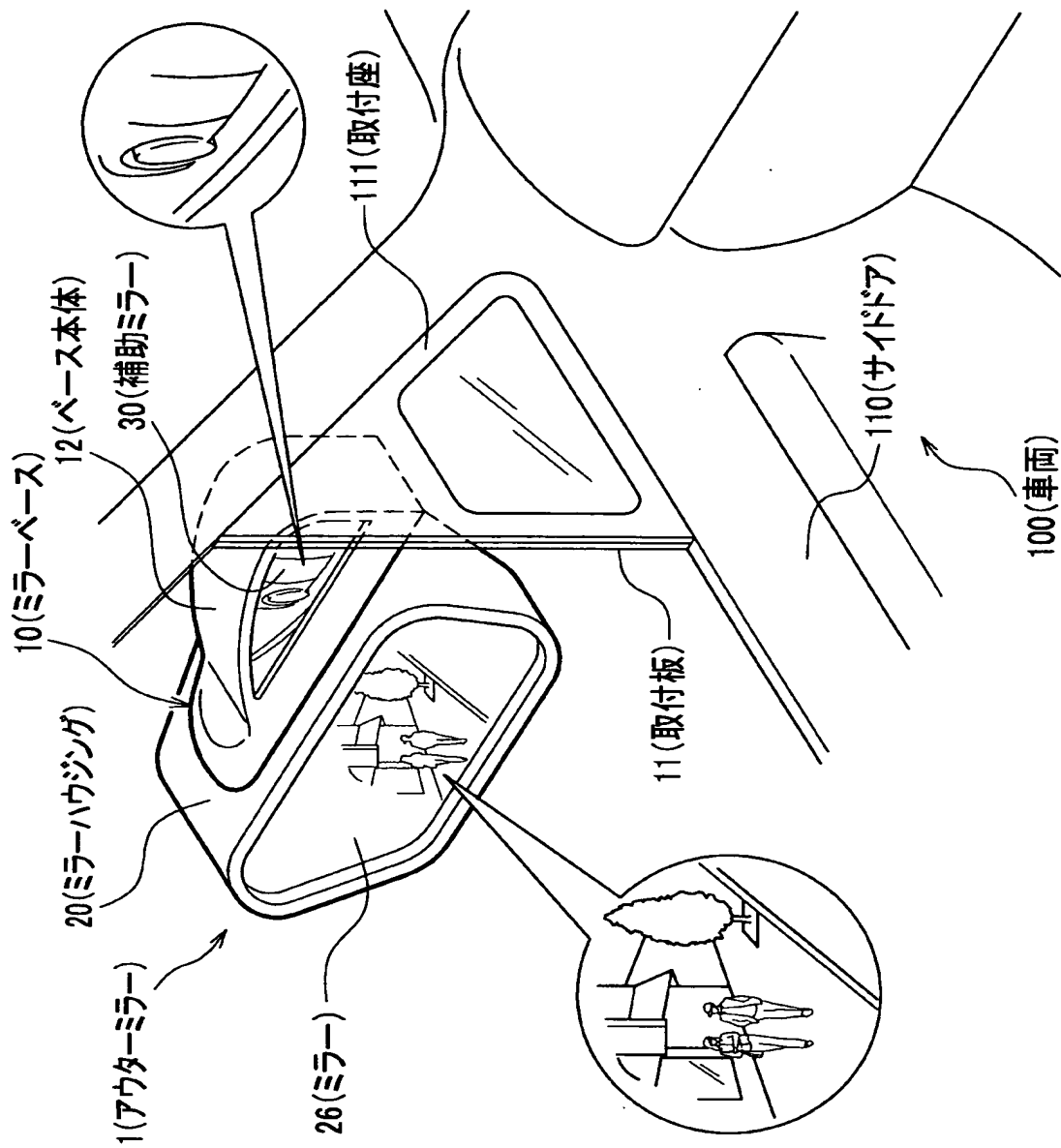
【図 2】



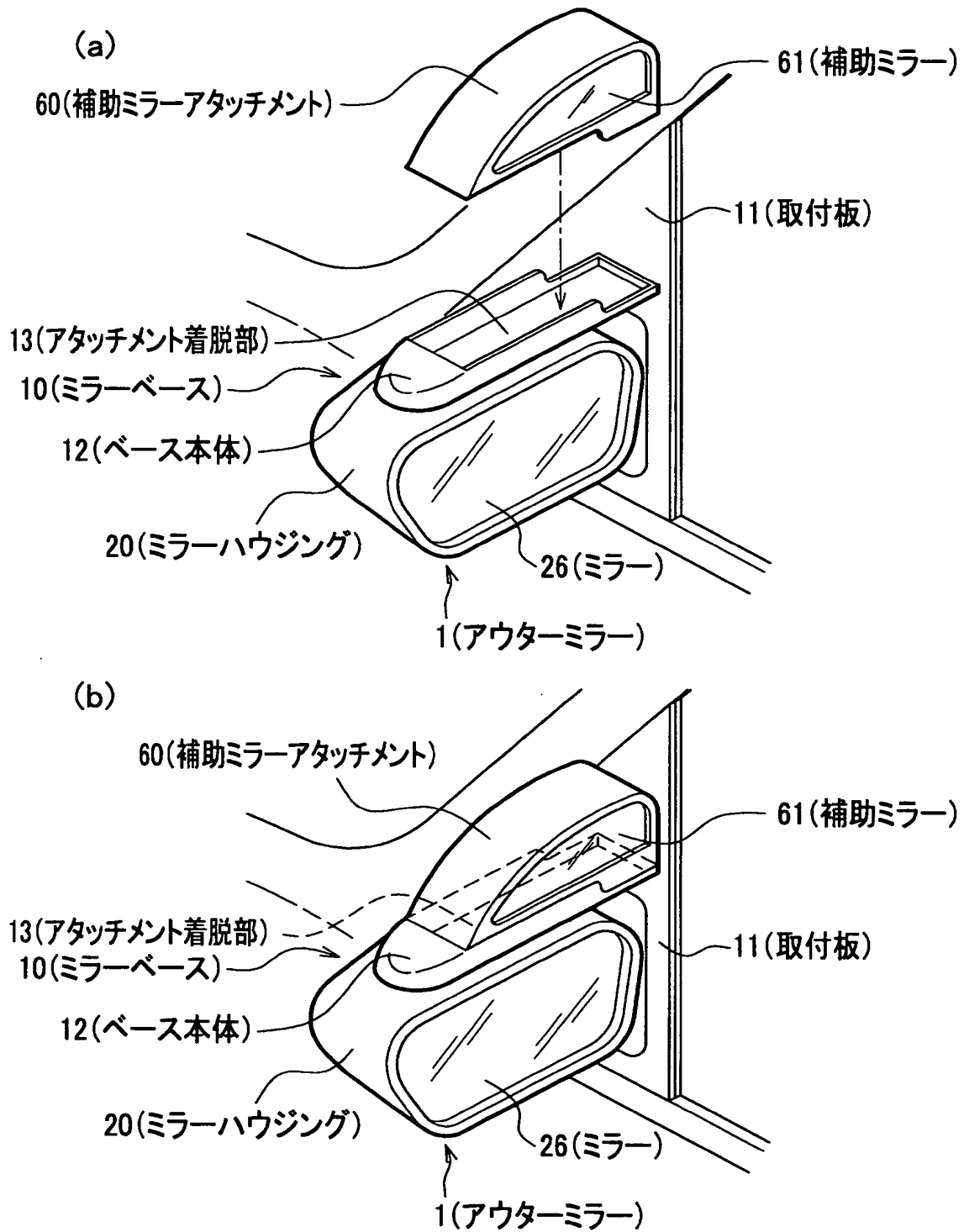
【図 3】



【図 4】

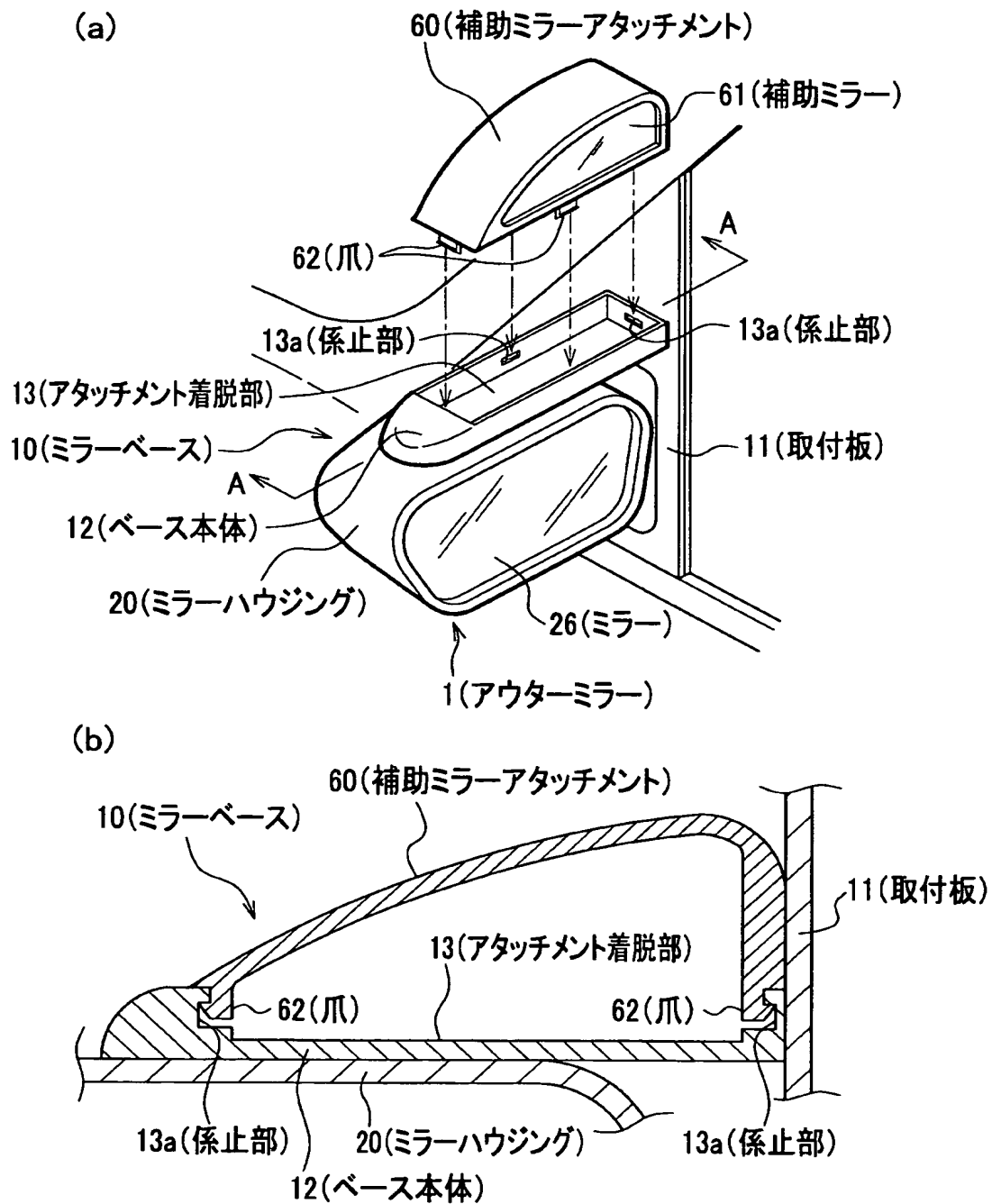


【図 7】



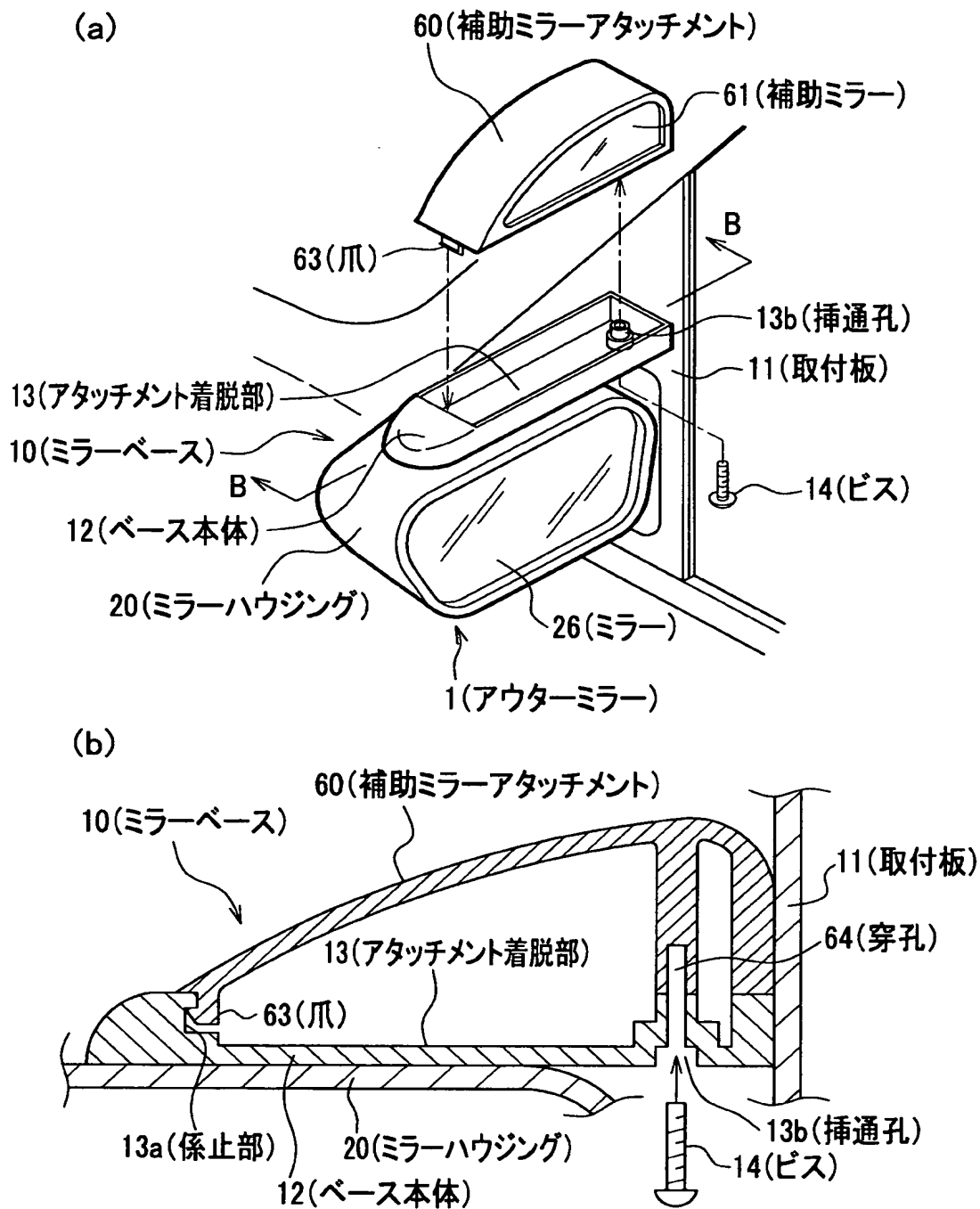
【図 8】

(第1の取付方法)



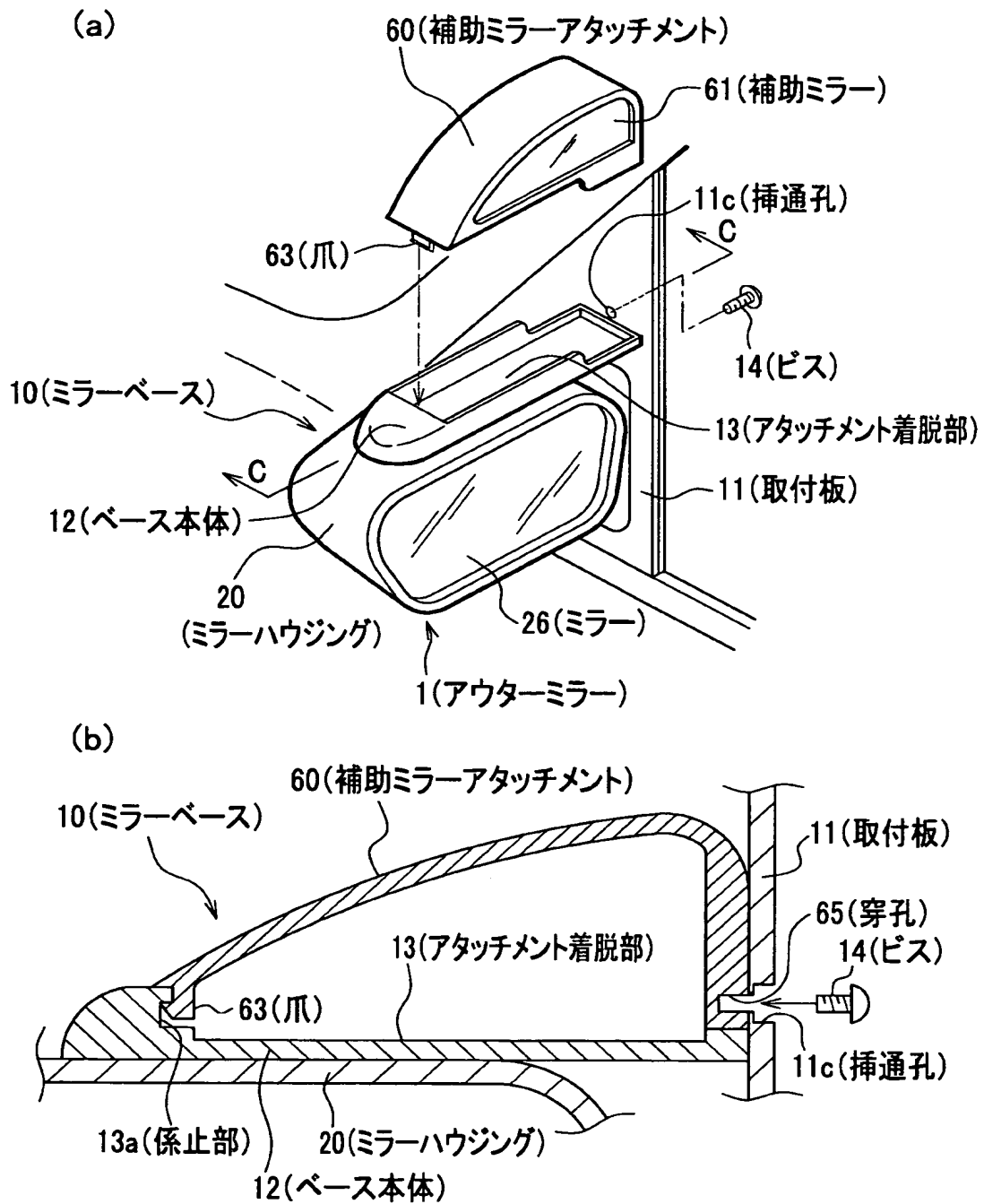
【図 9】

(第2の取付方法)

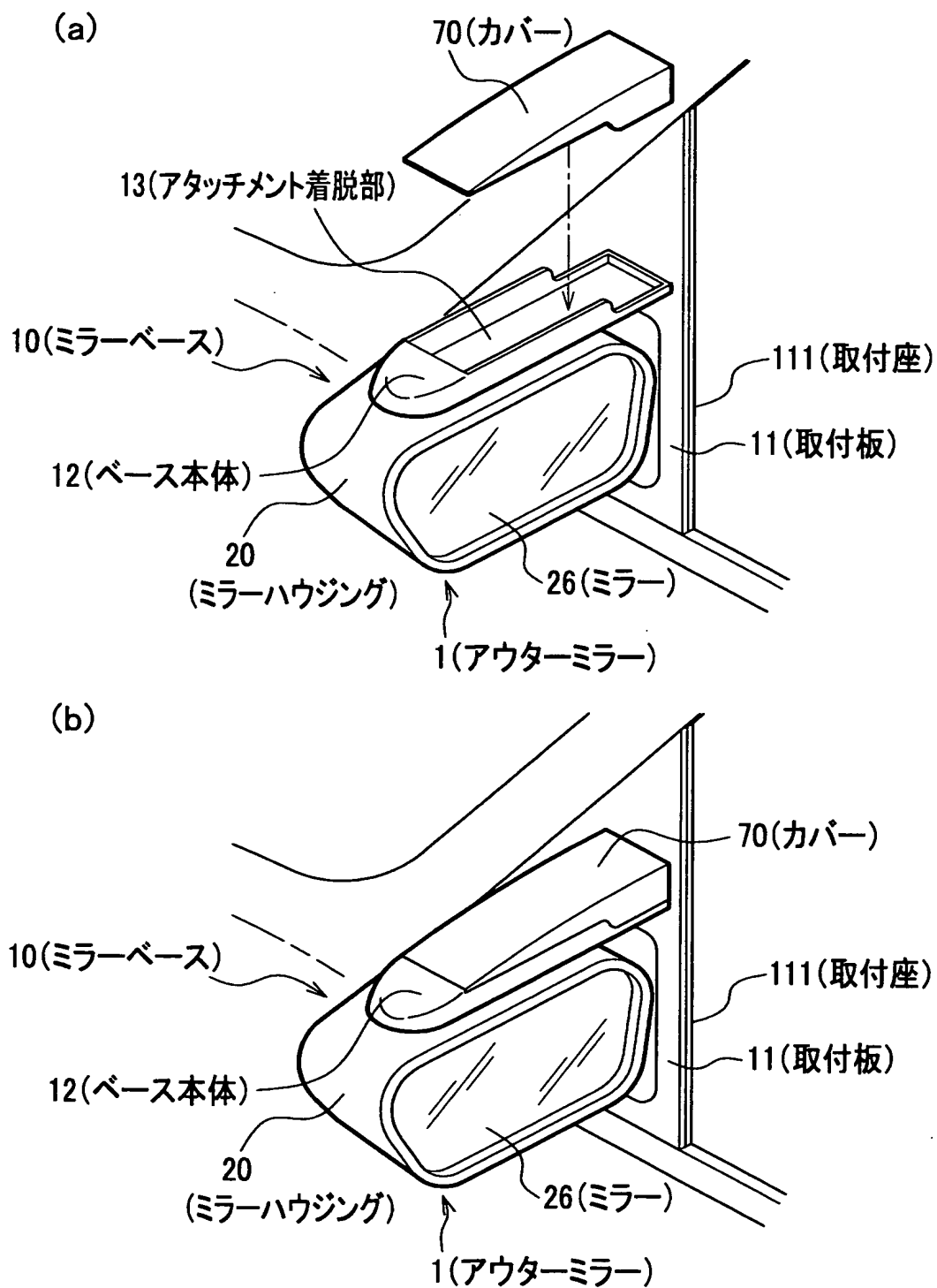


【図 10】

(第3の取付方法)



【図 11】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 補助ミラーをミラーハウジングの上側に取り付けることができ、かつ、重くてかさ張るタイプの補助ミラーを取り付けることができるアウターミラーを提供する。

【解決手段】 アウターミラー 1 は、サイドドア 1 1 0 の側面からその側方に向かって張り出すミラーベース 1 0 と、ミラーベース 1 0 の下側に吊設されるミラーハウジング 2 0 とを備えて構成されており、ミラーベース 1 0 には補助ミラー 3 0 が設けられている。

【選択図】 図 1

認定・付加情報

特許出願の番号	特願 2002-369868
受付番号	50201936620
書類名	特許願
担当官	工藤 紀行 2402
作成日	平成15年 2月20日

<認定情報・付加情報>

【特許出願人】

【識別番号】	000148689
【住所又は居所】	静岡県静岡市宮本町 12番25号
【氏名又は名称】	株式会社村上開明堂

【代理人】

【識別番号】	100113125
【住所又は居所】	東京都千代田区平河町 2丁目7番4号 砂防会館 別館内 磯野国際特許商標事務所

【氏名又は名称】	須崎 正士
----------	-------

【代理人】

【識別番号】	100064414
【住所又は居所】	東京都千代田区平河町 2丁目7番4号 砂防会館 別館内 磯野国際特許商標事務所

【氏名又は名称】	磯野 道造
----------	-------

次頁無

特願 2 0 0 2 - 3 6 9 8 6 8

出 願 人 履 歷 情 報

識別番号

[0 0 0 1 4 8 6 8 9]

1. 変更年月日

1 9 9 0 年 8 月 2 2 日

[変更理由]

新規登録

住 所

静岡県静岡市宮本町 1 2 番 2 5 号

氏 名

株式会社村上開明堂